

Book Review

ワンポイント MFT で取り組む 口腔機能すくすく BOOK

大野肅英・山口秀晴・井上美津子・
高橋 治・橋本律子 編著



Reviewer

浜野美幸 Miyuki Hamano
(東京都・千葉歯科医院)

A4 判変, 128 頁
カラー
定価 6,930 円
(本体 6,300 円+税 10%)
医歯薬出版刊



本書を一目見て、驚きのあまり声をあげそうになりました。最初感じたのは、編著者の先生方の^{そうそう}錚々たる顔ぶれに、どんなに豊かな内容なのだろうというわくわく感です。2018 年に出された「小児の口腔機能発達評価マニュアル」(日本歯科医学会)には、小児の口腔機能発達不全症の対応法の 1 つとして、MFT (口腔筋機能療法) があげられています。今回、矯正歯科・小児歯科の先生方が、診療室で応用可能な「ワンポイント MFT」を紹介する書籍をご執筆くださったことに敬意と胸の高まりを感じながら拝読しました。

「口腔機能発達不全症」の疾患名が保険収載されたことにより、小児の口腔機能育成への関心が高まっています。その対応法として、MFT の考え・手技は避けては通れませんが、「特別な講習を受け、専門書籍を読破しなければ取り組めない」と、MFT に対してハードルの高いイメージをもっている方も多いのではないのでしょうか。もちろん、矯正治療などと並行してフルプログラムを応用する場合は専門的な

技術・知識が必要になります。しかし、多くの子どもたちの口腔機能に問題がある現状を鑑みると、一般診療室での口腔機能への対応は急務であり、一人でも多くの歯科医師が MFT を通して小児の口腔機能の育成に携わる必要があると考えます。本書はそのための待望の一冊であり、一般診療室で取り組むためにどうしたらよいかという視点で書かれた秀逸な書籍です。

冒頭では、日常臨床で直面する「口腔機能の困りごとへの対応」に焦点が当てられています。「食べる機能、話す機能、呼吸の機能」に対して診療室で遭遇する問題点が提示され、歯科医療者側も「どう対応したらいいのだろう?」と困った様子が目に浮かびます。それに対し、原因ごとの対応のフローチャートが示され、最初に全体像が把握できます。次に、これらの困りごとについて、どこを見て、どのように評価し、どう対応すればよいか、原因と対策が論理的に解説されます。エキスパートの先生方が書かれているだけあって高度な内容ですが、入り口はビギナー目線で平易な言葉で解説されて

おり、そのまま患者への説明にも応用できる表現となっています。写真やイラストを多用しているため、患者さんに対応する際に本書を利用するのも有効だと思います。

本書では、たとえば、「食べること」の問題であれば、その原因は環境なのか・形態なのか・機能なのかなど、その背景知識と口腔機能を診るためのロジックを学ぶことができ、より正確に診査・評価・対応ができるようにまとまっています。一見ハウツー本のようにありながら、本質を楽しく学べる構成には感服します。さらに、小児の口腔機能の基礎知識や保護者からの質問に答えるための Q & A など、口腔機能についてこれから学びたい方に向けたポイントがコンパクトにまとめられています。付録として、患者さんが自宅でエクササイズを継続するためのツールもあり、患者さんに寄り添った優しさにあふれています。

本書を一人でも多くの方が手にとり、子どもの口腔機能発達の育成に携わることで、子どもたちの口腔の健康が増進することを願ってやみません。